



障害のある人のスポーツへの多様な参加を支援するために

障害のある人のスポーツ参加支援推進委員会

第16回 第21回全国障害者スポーツ大会 三重とこわか大会活動報告

三重県作業療法士会 障がい者スポーツ推進委員会
委員長 小山 隆幸
佐藤 明俊

はじめに

「第21回全国障害者スポーツ大会 三重とこわか大会」は、2021年10月23日(土)～25日(月)に三重県で開催予定であったが、全国のCOVID-19の感染拡大、また三重県での急激な感染者数の増加に伴い、8月25日に中止を決定した。本来であれば大会運営に関して報告予定であったが、大会が中止となったため運営準備に関して報告を行う。今後取り組まれる土会の参考にしていただけたら幸いである。

今大会の開催へ向けて、2016年7月に三重県より三重県作業療法士会への大会協力依頼があったのが活動の始まりである。県からはコンディショニンググループの運営はリハビリテーション専門職団体である理学療法士会・作業療法士会に全てを補っていただきたいという趣旨で、他県のコンディショニンググループの運営方法を視察し、三重県開催に向けて準備を進めるよう依頼があった。当時の三重県作業療法士会には障害者スポーツに関わる者はおらず、副会長が窓口となって視察や準備運営会議に参加した。コンディショニンググループの運営については、視察内容を理事会で報告し、運営方法の共有を行うと同時に協力者の募集方法や担当部署の設置の検討から取り組んだが、スポーツに関わることの少ない作業療法士にとって、県士会員への啓発は難航した。また、いくつの競技を支援するかなど不明瞭な点も多く、募集人数などの試算が難しかった。

三重県作業療法士会で行ったこと

1) 県士会内に対応窓口を設置、2) 組織作り(委員会の設置。総会、ホームページ、広報誌で報告)、

3) 委員会を構成する運営メンバーの招集と育成、を行った。組織作りに関しては、身体障害領域、精神障害領域、老年期領域、発達障害領域に興味のある会員をそれぞれで公募し、障害者スポーツに関する知識の習得を行った。同時に、全国大会へ向けての県予選における障害区分判定員(後述)となるべく、障害区分判定資格を取得してもらい、競技を視察して競技参加者の運動能力に対する理解を深めた。また、三重県理学療法士会にも協力依頼をし、単独運営もしくは共同運営の協議や、テーピング指導について検討などを行った。2019年時点、コンディショニンググループの運営については、テーピング支援業務は理学療法士会に委託し、それ以外の受付業務、ストレッチ、マッサージ業務は作業療法士会で支援する共同運営の方向で準備を進めていた。

COVID-19による影響

2020年初頭、全国的にCOVID-19の感染が拡大し、県担当者と理学療法士会・作業療法士会で換気の方法、環境消毒の方法、利用者制限などを含め検討してきた。

2020年4月、三重県よりコンディショニンググループ分担の依頼があり、当初は水泳とバレーボール(身体障害・知的障害・精神障害)を理学療法士会と共同運営するかたちで進めていたが、2021年の感染状況のさらなる拡大により、本来コンディショニンググループで行う予定であったマッサージやストレッチは長い時間選手に接触する行為になるため実施せず、テーピングのみの対応方針となった。そこで、過去の開催県のデータをもとに、一日の実施数を予測し、各コンディショニンググループの一日の担当者

数を割り出し、人員配置を検討した。また、理学療法士会との共同運営が困難となったため、作業療法士会でもテーピング業務を実施することとなった。COVID-19の蔓延とともに運営方法が見直され、最終的には2021年1月時点で、作業療法士会ではバレーボール（精神障害）、卓球の2会場を担当することとなった。また、コンディショニングルーム開設に向けて消耗品、水、ベッドなどの必要数の調査を行い、開催に向けた準備を進めた。

障がい者スポーツ推進委員会で行ったこと

1) 県士会員への啓発、2) 協力者の募集、3) 研修会の企画運営、を行った。2017年、三重県作業療法士会では障がい者スポーツ推進委員会を設置し、4名のコアメンバーで活動を開始した。県士会員へは2019年に障害者スポーツに関する研修を実施し、協力者募集に関する啓発を行った。大会の担当会場、運営方針などの詳細が決定したことにより、テーピングサービスの運営に従事するスタッフ募集を2021年1月より開始した。募集方法としては、三重県作業療法士協会のホームページにて協力者依頼の案内を掲載したが協力応募がなく、同年3月に再募集をした。最終的に精神科領域に携わる9名の県士会員の協力を得られ、大会4ヵ月前には県へ各会場の担当者リストを提出、その後、適時調整を行った。

協力会員からは、普段テーピングを実践する機会が少ないため大会当日のテーピングができるか不安との声もあった。そこで、三重県理学療法士会・三重県作業療法士会・三重県言語聴覚士会の合同勉強会を8月に開催した。対象は、三重とこわか大会テーピングサポートスタッフとし、三重県理学療法士会のアスレチックトレーナーが講師となり、テーピングの基礎知識から実践までを学べる内容で開催した。コロナ禍という難しい状況ではあったがテーピング実技ということもあり、研修会場の十分な換気や消毒、小グループ（3名程度）で間隔も十分確保したうえでの集合研修とした。参加者からは「基礎知識からテーピング技術の実技を通して学べて良かった」という感想が多く寄せられた。当士会としても最低限の準備が開催ギリギリ間に合ったかたち

になったが、1回だけの研修であり、参加者には当日までの自己学習を課した。しかし、感染拡大により大会は中止となり、中止決定からの6年後の延期申請も検討されたが、最終的には延期申請も見送られ、とこわか大会の開催は叶わず、協力会員の活躍の場も失われた結果となった。

三重とこわか大会以外での関わり

「三重とこわか大会」での取り組み以外の障害者スポーツへの関わりについて紹介する。障害者スポーツにはパラリンピックのクラス分けと同様、日本国内独自の障害区分判定というものがある。各競技同一条件で公平に競うためであるが、その障害区分判定に我々作業療法士の知見も必要になっている。今大会の運営にあたって、2017年から障害区分判定研修へ作業療法士を派遣し2019年鹿児島県で開催された障害区分判定研修までに4名の判定員を育成した。判定員は毎年三重県で開催される県選抜選手の区分審査判定や、各団体が主催する競技大会での障害区分判定などで活動している。今後も障害区分判定では活動を継続するが、今回の関わりを機に、テーピングサポートへも作業療法士が関わられるよう委員会でも検討していく必要があり、今後の課題となっている。

おわりに

大会中止が決定し、大会に向けて懸命に努力してこられた選手の皆様、それを支えてきた指導者や家族、選手の活躍を楽しみにしていた多くの人々の想いを考えると残念な結果となった。しかし、大会の準備を通して障害者スポーツに関わる多くの関係団体とつながりができたことは、士会にとって今後の財産になった。今回のつながりを大切に、県士会員と三重県理学療法士会、三重県言語聴覚士会とも、障害者スポーツを通して一緒に取り組める活動を推進していきたい。また、COVID-19が早期に収束し、競技に参加する方がスポーツの楽しさを体験するとともに社会参加の推進につながることを願いたい。最後に、大会運営にあたりご協力いただいた大会関係者、県士会員の皆様、一緒にテーピングサービスの運営準備に携わった関係者皆様に感謝申し上げます。